

2023年度後期入学 東京医科歯科大学 医学部保健衛生学科科目等履修生募集要項

1. 募集人員 : 各科目若干名
2. 出願資格 : 原則として大学入学資格を有する者(ただし、科目によって出願条件あり)
3. 出願手続 :

(1) 出願受付

期 間 : 2023年7月6日(木)から7月12日(水)まで

※出願書類は6月15日(木)よりメールにて配布します。希望者は gakumu2.adm@tmd.ac.jp まで
ご一報ください。

※出願にあたっては、**予め各授業科目担当教員と履修の可否について相談**(連絡先は開設科目の
ページを参照)の上、**了承を得てください**。出願書類提出の際に、**了承を得たことがわかる資
料(教員とのメール文等)も併せて提出してください**。

※出願書類はメールに添付し出願期間内必着で提出してください。受領確認のメールを送信いた
しますので、届かない場合はご連絡ください。

窓口提出の場合は平日のみ、受付時間:9時00分~12時00分、13時00分~17時00分

場 所 : 東京医科歯科大学 医学部事務部 保健衛生教務係(3号館6階)

・出願書類をやむを得ず郵送する場合は、書留郵便とし、封筒に「科目等履修生出願書類在中
と朱書のうえ、出願期間内に必着のこと。

(2) 提出書類等

① 科目等履修生入学願書(様式1)

※2022年度及び2023年度前期からの履修期間の延長者(以下「延長者」)は、履修期間
延長願(様式3)

② 履歴書(様式2)(延長者は出願時から変更がない場合は不要)

③ 最終学校の卒業(見込)証明書(延長者を除く) 証明書の姓名から改姓している場合は改姓した
ことがわかる書類(戸籍抄本等)も添付。

④ 検定料(9,800円)(延長者を除く)

※下記口座に振り込み。その際、振込人氏名の前に19000と記載のこと。振込をしたことが
分かるものを添付してください。なお、手数料は振込人負担となります。

三菱UFJ銀行本店 普通預金7897115 ヨクリツダイガクホウジン トウキョウイカシカダイガク 国立大学法人 東京医科歯科大学

⑤ 外国人の場合、在留資格を証明できる書類の写しを提出してください。

4. 選考方法及び結果 :

(1) 選考方法

① 書類審査

② 面接(延長者を除く):2023年8月8日(火)午後(出願人数により時間帯調整予定)
(実施方法については別途連絡。)

(2) 結 果

出願者及び履修期間延長申請者には、合否通知書等を郵送(9月14日頃)いたします。

5. 入学手続 :

下記により入学等の手続を行うこと。(期間内に手続を完了しない時は、入学及び延長を許可しません。)

- (1) 期 間 : 2023年9月14日(木) から9月19日(火)まで
- (2) 場 所 : 東京医科歯科大学 医学部事務部 保健衛生教務係(3号館6階)
- (3) 必要書類 (①と②はメール、⑥は郵送にて用紙を送ります。①から⑤はメールにて提出可能です。⑥は郵送か窓口にて提出してください。)

- ① 誓約書(延長者を除く)
- ② 学生証(身分証明書)発行台帳(延長者を除く。)
- ③ 卒業証明書(出願時に卒業見込証明書を提出した者)
- ④ 写真(出願前3ヶ月以内に撮影したもので上半身脱帽のもの)
縦4cm×横3cm 2枚
- ⑤ 入学料(28,200円)(延長者を除く)

※下記口座に振り込むこと。(検定料の振込先と異なるので注意。)その際、振込人氏名の前に受験番号を記載。振込をしたことが分かるものを添付してください。なお、手数料は振込人負担となります。

三菱UFJ銀行本店 普通預金7897102 コクリツダイガクホウジン 国立大学法人 トウキョウイカシカダイガク 東京医科歯科大学

⑥ 預金口座振替依頼書または授業料振替口座の継続依頼書

6. 授業料 : 1単位につき14,800円 納入方法は、預金口座からの自動引落としです。
口座振替登録が間に合わない場合は振込になります。
7. 履修届 : 履修届(合格通知に同封)は、開講後、履修を許可された科目の担当教員に押印してもらい、
医学部事務部保健衛生教務係まで提出してください。(授業開始後1ヶ月以内)
※登校授業の予定がない場合は別途連絡します。日程や授業形態にご注意ください。
8. 開設科目及び科目の概要 : 開設科目参照
9. 授業時間割 : シラバス参照
10. その他 :
 - (1) 入学後の履修科目の追加・変更は一切認めないので注意してください。
 - (2) 既納料金は、いかなる理由があっても返還いたしません。
 - (3) 履修科目の認定結果はWebclass(電子掲示板)に掲示(3月中旬頃)します。
 - (4) 選抜に用いた個人情報を教育目的以外に使用することはありません。
 - (5) 本募集に係る照会

東京医科歯科大学 医学部保健衛生教務係

〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45 TEL 03-5803-5119, 5121 gakumu2.adm@tmd.ac.jp

2023年度開設科目(後期)

授業科目名	単 位 数	履修期間		科 目 の 概 要	担当分野・教員名及び連絡先
		後期	通年		
薬理学Ⅰ・Ⅱ	各 1	○		薬理学は、化学物質（薬物）と生体（個体～分子レベルを含む）の間で起こる選択的な相互作用を研究する学問であり、生体が薬物の吸収や分布、代謝、排泄に及ぼす影響を調べる薬物動態学と、薬物が生体に及ぼす生化学的・生理学的作用（薬理作用）を調べる薬力学に大別される。本講義では、これらについての基本的な内容を学習する。	大学病院 薬剤部 永田 将司 准教授 03-5803-5609 mna-mpha@tmd.ac.jp
微生物学 (看護学専攻)	1	○		微生物学は微生物の性質と機能を解する学問である。この科目では、特に医学領域で重要な感染症の原因となる微生物および微生物とその宿主（特に人間）の相互関係に関わる基礎を学習する。 受験可能人数：2名	微生物・感染免疫解析学分野 齋藤 良一 教授 03-5803-5368 r-saito.mi@tmd.ac.jp
病原体検査学講義 (Ⅰ) (検査技術学専攻)	1	○		微生物学は微生物の性質と機能を解する学問である。この科目では、特に医学領域で重要な感染症の原因となる微生物および微生物とその宿主（特に人間）の相互関係に関わる基礎を学習する。 受験可能人数：2名	微生物・感染免疫解析学分野 齋藤 良一 教授 03-5803-5368 r-saito.mi@tmd.ac.jp

時間割番号	012009			科目ID	MN-230500-L		
科目名	薬理学 I			科目ID	MN-230500-L		
担当教員	永田 将司, 今津 陽子[NAGATA MASASHI, IMAZU YOKO]						
開講時期	2023 年度後期	対象年次	2	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する						
英文名: Pharmacology I 【科目責任者】看護学専攻 災害・クリティカルケア看護学 今津 陽子 【科目担当】永田 将司							
授業の目的、概要等 薬理学は、化学物質(薬物)と生体(個体～分子レベルを含む)との間で起こる選択的な相互作用を研究する学問である。どの視点から相互作用を考えるかによって、以下の 2 つに分けられる。①薬力学:薬物が生体に及ぼす生化学的・生理学的作用(薬理作用)を調べる。②薬物動態学:生体が薬物の吸収や分布・代謝、排泄に及ぼす影響を調べる。これらについて深い知識を有することは、適正な薬物療法を行うために必要不可欠である。							
授業の到達目標 1)薬物とは何かについて説明できる。 2)薬物の使用目的について説明できる。 3)薬物の体内での動きについて説明できる。 4)代表的な感染症治療薬を列挙し、作用機構を説明できる。 5)代表的な抗がん薬を列挙し、作用機構を説明できる。 6)代表的な免疫治療薬を列挙し、作用機構を説明できる。 7)代表的な抗アレルギー・抗炎症薬を列挙し、作用機構を説明できる。 8)末梢での神経活動に作用する代表的な薬物を列挙し、作用機構を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	10/4	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	薬理学を学ぶにあたって、薬理学の基礎知識(1)	薬理学とは何か、薬による病気の治療、薬が作用するしくみ	永田 将司, 今津 陽子	【到達目標】1-3) 【学習方法】遠隔講義
2	10/4	13:00-14:30	遠隔授業 (同期型)	薬理学の基礎知識(2)	薬の体内挙動	永田 将司	【到達目標】1-3) 【学習方法】遠隔講義
3	10/11	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	薬理学の基礎知識(3)・看護業務に必要な薬の知識	薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子、薬物使用の有益性と危険性、薬と法律、薬に関する単位、処方せん、添付文書	永田 将司	【到達目標】1-3) 【学習方法】遠隔講義
4	10/11	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	抗感染症薬	感染症治療に関する基礎事項、抗感染症薬各論、特殊な感染症の治療薬、感染症の治療における問題点	永田 将司	【到達目標】4) 【学習方法】遠隔講義
5	10/25	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	抗がん薬	がん治療に関する基礎事項、抗がん薬各論	永田 将司	【到達目標】5) 【学習方法】演習(小テスト)、遠隔講義【事前学習】1-4 回の復習
6	10/25	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	免疫治療薬	免疫系の基礎知識、免疫抑制薬、免疫増強薬・予防接種薬	永田 将司	【到達目標】6) 【学習方法】遠隔

							講義
7	11/8	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	抗アレルギー・抗炎症薬	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、 炎症と抗炎症薬、関節リウマチ治 療薬、痛風・高尿酸血症治療薬、 片頭痛治療薬	永田 将司	【到達目標】7) 【学習方法】演習 (小テスト)、遠隔 講義【事前学 習】5-6 回の復習
8	11/8	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	末梢での神経活動に作 用する薬物	神経系による情報伝達、自律神経 系作用薬、交感神経作用薬、副交 感神経作用薬、筋弛緩薬・局所麻 酔薬	永田 将司	【到達目標】8) 【学習方法】遠隔 講義

授業方法

Zoom を用いたオンライン形式(同期型)で行う。

講義は教科書に沿って進めるので、必ず教科書を持参すること。

また、アクティブラーニングを取り入れ、5、7 回目の講義冒頭に Webclass を用いて課題演習(小テスト)を行う。講義中に解説を行いフィードバックする。

成績評価の方法

薬理学 I と II を総合して、授業中に行う小テスト(20 点)、筆記試験(80 点)および出欠状況に基づき評価する。なお、筆記試験問題の一部は英語で出題する。

成績評価の基準

S(90 点以上)、A(89-80 点)、B(79-70 点)、C(69-60 点)、D(59 点以下)の 5 段階で評価を行う。

本試験で D の場合、再試験を行う。再試験でも D となった場合は次年度再履修が必要である。

準備学習等についての具体的な指示

解剖学・生理学・病理学をよく復習しておくこと。

試験の受験資格

薬理学 I (8 回)と II (8 回)をまとめて一つの試験を行う。

全 16 回中 12 回以上出席したものに受験資格を認める。

講義は Zoom を用いたオンライン形式で行うため、最初から最後まで参加しているログが確認できた場合を出席とする。

教科書

薬理学／吉岡充弘 [ほか著]、吉岡 充弘、泉 剛、井関 健、横式 尚司、菅原 満、医学書院、2022

備考

2022 年度の授業評価では大きな改善を求める点はなかったが、引き続き、アクティブラーニング(小テスト)を取り入れた能動的な学習ができる授業を行う。

連絡先(メールアドレス)

今津 陽子:imazu.dn@tmd.ac.jp 3 号館 18 階

永田 将司:mna-mpha@tmd.ac.jp

オフィスアワー

今津 陽子:平日 AM.10:00-PM.5:00 3 号館 18 階 災害・クリティカルケア看護学分野准教授室

永田 将司:オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡してから訪問すること

時間割番号	012010			科目ID	MN-230600-L		
科目名	薬理学Ⅱ			科目ID	MN-230600-L		
担当教員	永田 将司, 今津 陽子[NAGATA MASASHI, IMAZU YOKO]						
開講時期	2023 年度後期	対象年次	2	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する						
英文名: Pharmacology II 【科目責任者】看護学専攻 災害・クリティカルケア看護学 今津 陽子 【科目担当】永田 将司							
授業の目的、概要等 薬理学は、化学物質(薬物)と生体(個体～分子レベルを含む)との間で起こる選択的な相互作用を研究する学問である。どの視点から相互作用を考えるかによって、以下の 2 つに分けられる。①薬力学:薬物が生体に及ぼす生化学的・生理学的作用(薬理作用)を調べる。②薬物動態学:生体が薬物の吸収や分布・代謝、排泄に及ぼす影響を調べる。これらについて深い知識を有することは、適正な薬物療法を行うために必要不可欠である。							
授業の到達目標 1)中枢神経系に作用する代表的な薬物を列挙し、作用機構を説明できる。 2)心臓・血管系に作用する代表的な薬物を列挙し、作用機構を説明できる。 3)呼吸器系に作用する代表的な薬物を列挙し、作用機構を説明できる。 4)消化器・生殖器系に作用する代表的な薬物を列挙し、作用機構を説明できる。 5)物質代謝に作用する代表的な薬物を列挙し、作用機構を説明できる。 6)代表的な皮膚科用薬・眼科用薬を列挙し、作用機構を説明できる。 7)漢方薬と西洋薬の違いや、漢方薬の副作用について説明できる。 8)代表的な消毒薬を列挙し、その特徴を説明できる。 9)新薬開発までの道のりを説明できる。日本国内で発生した代表的な薬害事例を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	11/14	13:00-14:30	遠隔授業(同期型)	中枢神経系に作用する薬物(1)	中枢神経系のはたらきと薬物、全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬	永田 将司, 今津 陽子	【到達目標】1) 【学習方法】演習(小テスト)、遠隔講義【事前学習】薬理学Ⅰ7-8回の復習
2	11/14	14:40-16:10	遠隔授業(同期型)	中枢神経系に作用する薬物(2)	抗精神病薬、気分障害治療薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬	永田 将司	【到達目標】1) 【学習方法】遠隔講義
3	11/21	14:40-16:10	遠隔授業(同期型)	心臓・血管系に作用する薬物(1)	抗高血圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬	永田 将司	【到達目標】2) 【学習方法】演習(小テスト)、遠隔講義【事前学習】1-2回の復習
4	11/21	16:20-17:50	遠隔授業(同期型)	心臓・血管系に作用する薬物(2)	抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液に作用する薬物	永田 将司	【到達目標】2) 【学習方法】遠隔講義
5	11/28	08:50-10:20	遠隔授業(同期型)	呼吸器系に作用する薬物	呼吸器系に作用する薬物	永田 将司	【到達目標】3) 【学習方法】演習(小テスト)、遠隔

							講義【事前学習】3-4回の復習
6	11/28	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	消化器・生殖器系に作用する薬物	消化器系に作用する薬物、生殖器・泌尿器系に作用する薬物	永田 将司	【到達目標】4) 【学習方法】遠隔講義
7	12/18	08:50-10:20	遠隔授業 (同期型)	物質代謝に作用する薬物、皮膚科用薬・眼科用薬、漢方薬、消毒薬	ホルモンとホルモン拮抗薬、治療薬としてのビタミン、皮膚に使用する薬物、眼科用薬、漢方医学の基礎知識、漢方薬各論 消毒薬とは、消毒薬の種類と応用、消毒薬の適応	永田 将司	【到達目標】5-8) 【学習方法】演習(小テスト)、遠隔講義【事前学習】5-6回の復習
8	12/18	10:30-12:00	遠隔授業 (同期型)	臨床薬理学	医薬品の開発、副作用と薬害	永田 将司	【到達目標】9) 【学習方法】遠隔講義

授業方法

Zoomを用いたオンライン形式(同期型)で行う。

講義は教科書に沿って進めるので、必ず教科書を持参すること。

また、アクティブラーニングを取り入れ、1、3、5、7回目の講義冒頭に Webclass を用いて課題演習(小テスト)を行う。講義中に解説を行いフィードバックする。

成績評価の方法

薬理学 I と II を総合して、授業中に行う小テスト、筆記試験および出欠状況に基づき評価する。なお、筆記試験問題の一部は英語で出題する。

成績評価の基準

S(90点以上)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)、D(59点以下)の5段階で評価を行う。

本試験でDの場合、再試験を行う。再試験でもDとなった場合は次年度再履修が必要である。

準備学習等についての具体的な指示

解剖学・生理学・病理学をよく復習しておくこと。

試験の受験資格

薬理学 I (8回)と II (8回)をまとめて一つの試験を行う。

全16回中12回以上出席したものに受験資格を認める。

講義はZoomを用いたオンライン形式で行うため、最初から最後まで参加しているログが確認できた場合を出席とする。

教科書

薬理学/吉岡充弘 [ほか著]吉岡 充弘, 泉 剛, 井関 健, 横式 尚司, 菅原 満, 医学書院, 2022

備考

2022年度の授業評価では大きな改善を求める点はなかったが、引き続き、アクティブラーニング(小テスト)を取り入れた能動的な学習ができる授業を行う。

連絡先(メールアドレス)

今津 陽子:imazu.dn@tmd.ac.jp 3号館18階

永田 将司:mna-mpha@tmd.ac.jp

オフィスアワー

今津 陽子:平日 AM.10:00-PM.5:00 3号館18階 災害・クリティカルケア看護学分野准教授室

永田 将司:オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡してから訪問すること

時間割番号	012012A			科目ID	MN-130600-L		
科目名	微生物学			科目ID	MN-130600-L		
担当教員	齋藤 良一[SAITO RYOICHI]						
開講時期	2023 年度後期	対象年次	1	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する						
<p>英文名:Medical microbiology</p> <p>【科目責任者】齋藤 良一</p>							
主な講義場所							
遠隔授業(同期)により行う。							
授業の目的、概要等							
感染症の原因である微生物および微生物とその宿主(特に人間)との相互関係に関する学問である医学微生物学について学ぶ。また人間をとりまく環境中の微生物についても学習する。							
授業の到達目標							
学生はこの講義を通して医学微生物学の基礎的知識を修得できる。							
1)微生物の構造や細菌の代謝、遺伝、微生物の消毒、滅菌方法について説明できる。							
2)微生物の病原因子や宿主の感染防御機構、感染症治療と予防・感染制御について説明できる。							
3)医学微生物学の領域で問題となる主な病原微生物(細菌、真菌、ウイルス、寄生虫)とそれらが関わる感染症について説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/26	08:50-10:30	遠隔授業(同期型)	微生物学総論(1)	微生物学の概念と歴史、微生物細胞の形態と構造、微生物の分類・命名	齋藤 良一	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義、質疑応答、グループ討論【事後課題】WebClass 上での小テスト
3-4	10/3	08:50-10:30	遠隔授業(同期型)	微生物学総論(2)	大腸菌の生理と生化学	齋藤 良一	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義【事後課題】WebClass 上での小テスト
5-6	10/10	08:50-10:30	保健衛生学科講義室1	微生物学総論(3)	細菌の増殖・生残・死滅、滅菌と消毒	齋藤 良一	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義、質疑応答、グループ討論【事後課題】WebClass 上での小テスト
7-8	10/17	08:50-10:30	遠隔授業(同期型)	微生物学総論(4)	微生物の遺伝、環境と微生物	齋藤 良一	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義、質疑応答、グループ討論【事後

							課題]WebClass 上での小テスト
9-10	10/24	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	微生物と免疫	免疫, 微生物の病原因子, 宿主の感染に対する抵抗性	齋藤 良一	【到達目標】2【学習方法】遠隔講義【事後課題】WebClass 上での小テスト
11-12	10/31	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	感染症学総論(1)	主な病原微生物(ウイルス)と感染症	齋藤 良一	【到達目標】3【学習方法】遠隔講義, 質疑応答【事後課題】WebClass 上での小テスト
13-14	11/7	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	感染症学総論(2)	主な病原微生物(細菌と真菌)と感染症	齋藤 良一	【到達目標】3【学習方法】遠隔講義, 質疑応答【事後課題】WebClass 上での小テスト
15-16	11/14	08:50-10:30	保健衛生 学科講義 室 1	感染制御, 化学療法	化学療法, 感染症の予防とコントロール	具 芳明	【到達目標】2【学習方法】遠隔講義, 質疑応答【事後課題】WebClass 上での小テスト
17-18	11/24	08:50-10:30	保健衛生 学科講義 室 1	試験		齋藤 良一	

授業方法

遠隔授業(同期型): WebClass で事前配布した資料をもとに講義し、質疑応答やグループ討論、小テスト等を行う。

なお、遠隔授業(非同期型)となった場合は、WebClass で配布された動画資料を視聴後、WebClass 上で小テストに解答し、各自で講義内容の理解度を確認する。

授業内容

医学微生物学全般(細菌学、ウイルス学、真菌学、免疫学)にわたる基礎的な事項について講義を行う。感染症に関してもその概略を述べる。一部で分子生物学的手法を用いた先進的な微生物の特性や動態解析についても概説する。

成績評価の方法

定期試験成績(85 点)、課題内容(10 点)および授業態度(5 点)により総合的評価(100 点満点)を行う。定期試験は多肢選択問題で構成され、基本的な専門用語を英語で示す問題も一部に含まれる。

成績評価の基準

「成績評価の方法」に示した項目の合計が 60 点以上の場合を合格とする。

準備学習等についての具体的な指示

講義前に事前配布資料で予習し、関連する内容は教科書でも学習すること。

試験の受験資格

本学の試験規則を満たす者。但し、出席管理は以下のように行う。

・遠隔授業(同期型): zoom のアクセス時間と講義中に行う小テストや質疑応答等により判断する。講義開始 30 分以上経過後のアクセスは欠席とみなす。

・対面授業: 出席管理システム(カードタッチ)で判断する。講義開始 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。

なお、遠隔授業(非同期型)に変更となった場合は動画視聴後に提示された課題を期限内に提出した場合、出席とする。

教科書

微生物学 / 吉田真一, 他 [著].: 医学書院, 2018

参考書

イラストでわかる微生物学超入門：病原微生物の感染のしくみ／齋藤光正著, 齋藤, 光正, 南山堂, 2018

他科目との関連

免疫学、生化学、病理学、公衆衛生学などの科目と密接な関係を持っている。

履修上の注意事項

微生物学の範囲は広く講義時間数は限られているので、毎回出席することが大切である。また講義内容の復習や講義で詳しく触れなかった事項も自主学習し、單元ごとに知識の定着を図って欲しい。講義・実習に関わる資料は全て著作物であり、著作権の関係上、外部に流出することの無いように十分気を付けること。

備考

前年度の授業評価結果を踏まえ、今年度も引き続き丁寧に指導・教育できる体制を整える。

連絡先(メールアドレス)

齋藤 良一 r-saito.mi@tmd.ac.jp

オフィスアワー

齋藤 良一 随時(必ず事前に連絡を入れること)

時間割番号	013014A			科目ID	MT-130600-L																																										
科目名	病原体検査学講義(Ⅰ)			科目ID	MT-130600-L																																										
担当教員	齋藤 良一[SAITO RYOICHI]																																														
開講時期	2023 年度後期	対象年次	1	単位数	1																																										
実務経験のある教員による授業	該当する																																														
<p>英文名:Medical microbiology, Lecture(Ⅰ)</p> <p>【科目責任者】齋藤 良一</p>																																															
<p>主な講義場所</p> <p>遠隔授業(同期)により行う。</p>																																															
<p>授業の目的、概要等</p> <p>感染症の原因である微生物および微生物とその宿主(特に人間)との相互関係に関する学問である医学微生物学について学ぶ。また人間をとりまく環境中の微生物についても学習する。</p>																																															
<p>授業の到達目標</p> <p>学生はこの講義を通して医学微生物学の基礎的知識を修得できる。</p> <p>1)微生物の構造や細菌の代謝、遺伝、微生物の消毒、滅菌方法について説明できる。</p> <p>2)微生物の病原因子や宿主の感染防御機構、感染症治療と予防・感染制御について説明できる。</p> <p>3)医学微生物学の領域で問題となる主な病原微生物(細菌、真菌、ウイルス、寄生虫)とそれらが関わる感染症について説明できる。</p>																																															
<p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>授業内容</th> <th>担当教員</th> <th>到達目標・学習方法・その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-2</td> <td>9/26</td> <td>08:50-10:30</td> <td>保健衛生学科講義室2</td> <td>微生物学総論(1)</td> <td>微生物学の概念と歴史, 微生物細胞の形態と構造, 微生物の分類・命名</td> <td>齋藤 良一</td> <td>【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義、質疑応答、グループ討論【事後課題】WebClass 上での小テスト</td> </tr> <tr> <td>3-4</td> <td>10/3</td> <td>08:50-10:30</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>微生物学総論(2)</td> <td>大腸菌の生理と生化学</td> <td>齋藤 良一</td> <td>【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義【事後課題】WebClass 上での小テスト</td> </tr> <tr> <td>5-6</td> <td>10/10</td> <td>08:50-10:30</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>微生物学総論(3)</td> <td>細菌の増殖・生残・死滅, 滅菌と消毒</td> <td>齋藤 良一</td> <td>【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義、質疑応答、グループ討論【事後課題】WebClass 上での小テスト</td> </tr> <tr> <td>7-8</td> <td>10/17</td> <td>08:50-10:30</td> <td>保健衛生学科講義室4</td> <td>微生物学総論(4)</td> <td>微生物の遺伝, 環境と微生物</td> <td>齋藤 良一</td> <td>【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義、質疑応答、グループ討論【事後課題】WebClass 上</td> </tr> </tbody> </table>								回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他	1-2	9/26	08:50-10:30	保健衛生学科講義室2	微生物学総論(1)	微生物学の概念と歴史, 微生物細胞の形態と構造, 微生物の分類・命名	齋藤 良一	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義、質疑応答、グループ討論【事後課題】WebClass 上での小テスト	3-4	10/3	08:50-10:30	遠隔授業(同期型)	微生物学総論(2)	大腸菌の生理と生化学	齋藤 良一	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義【事後課題】WebClass 上での小テスト	5-6	10/10	08:50-10:30	遠隔授業(同期型)	微生物学総論(3)	細菌の増殖・生残・死滅, 滅菌と消毒	齋藤 良一	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義、質疑応答、グループ討論【事後課題】WebClass 上での小テスト	7-8	10/17	08:50-10:30	保健衛生学科講義室4	微生物学総論(4)	微生物の遺伝, 環境と微生物	齋藤 良一	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義、質疑応答、グループ討論【事後課題】WebClass 上
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他																																								
1-2	9/26	08:50-10:30	保健衛生学科講義室2	微生物学総論(1)	微生物学の概念と歴史, 微生物細胞の形態と構造, 微生物の分類・命名	齋藤 良一	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義、質疑応答、グループ討論【事後課題】WebClass 上での小テスト																																								
3-4	10/3	08:50-10:30	遠隔授業(同期型)	微生物学総論(2)	大腸菌の生理と生化学	齋藤 良一	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義【事後課題】WebClass 上での小テスト																																								
5-6	10/10	08:50-10:30	遠隔授業(同期型)	微生物学総論(3)	細菌の増殖・生残・死滅, 滅菌と消毒	齋藤 良一	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義、質疑応答、グループ討論【事後課題】WebClass 上での小テスト																																								
7-8	10/17	08:50-10:30	保健衛生学科講義室4	微生物学総論(4)	微生物の遺伝, 環境と微生物	齋藤 良一	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義、質疑応答、グループ討論【事後課題】WebClass 上																																								

							での小テスト
9-10	10/24	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	微生物と免疫	免疫, 微生物の病原因子, 宿主の 感染に対する抵抗性	齋藤 良一	【到達目標】2【学 習方法】遠隔講義 【事後課題】 WebClass 上での 小テスト
11-12	10/31	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	感染症学総論(1)	主な病原微生物(ウイルス)と感染 症	齋藤 良一	【到達目標】3【学 習方法】遠隔講 義、質疑応答【事 後課題】WebClass 上での小テスト
13-14	11/7	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	感染症学総論(2)	主な病原微生物(細菌と真菌)と感 染症	齋藤 良一	【到達目標】3【学 習方法】遠隔講 義、質疑応答【事 後課題】WebClass 上での小テスト
15-16	11/14	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	感染制御、化学療法	化学療法, 感染症の予防とコント ロール	具 芳明	【到達目標】2【学 習方法】遠隔講 義、質疑応答【事 後課題】WebClass 上での小テスト
17-18	11/24	08:50-10:30	保健衛生 学科講義 室 4	試験		齋藤 良一	

授業方法

遠隔授業(同期型): WebClass で事前配布した資料をもとに講義し、質疑応答やグループ討論、小テスト等を行う。

なお、遠隔授業(非同期型)となった場合は、WebClass で配布された動画資料を視聴後、WebClass 上で小テストに解答し、各自で講義内容の理解度を確認する。

授業内容

医学微生物学全般(細菌学、ウイルス学、真菌学、免疫学)にわたる基礎的な事項について講義を行う。感染症に関してもその概略を述べる。一部で分子生物学的手法を用いた先進的な微生物の特性や動態解析についても概説する。

成績評価の方法

定期試験成績(85 点)、課題内容(10 点)および授業態度(5 点)により総合的評価(100 点満点)を行う。定期試験は多肢選択問題で構成され、基本的な専門用語を英語で示す問題も一部に含まれる。

成績評価の基準

「成績評価の方法」に示した項目の合計が 60 点以上の場合を合格とする。

準備学習等についての具体的な指示

講義前に事前配布資料で予習し、関連する内容は教科書でも学習すること。

試験の受験資格

本学の試験規則を満たす者。但し、出席管理は以下のように行う。

・遠隔授業(同期型): zoom のアクセス時間と講義中に行う小テストや質疑応答等により判断する。講義開始 30 分以上経過後のアクセスは欠席とみなす。

・対面授業: 出席管理システム(カードタッチ)で判断する。講義開始 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。

なお、遠隔授業(非同期型)に変更となった場合は動画視聴後に提示された課題を期限内に提出した場合、出席とする。

教科書

臨床微生物学/松本哲哉 編集: 医歯薬出版, 2017

参考書

シンプル微生物学/小熊惠二, 堀田博, 若宮伸隆編集 小熊, 惠二, 堀田, 博, 若宮, 伸隆: 南江堂, 2018

標準微生物学／神谷茂, 錫谷達夫編集, 中込 治, 神谷 茂, 錫谷 達夫.: 医学書院, 2018

イラストでわかる微生物学超入門：病原微生物の感染のしくみ／齋藤光正著, 齋藤 光正.: 南山堂, 2018

他科目との関連

免疫学、生化学、病理学、公衆衛生学などの科目と密接な関係を持っている。

履修上の注意事項

微生物学の範囲は広く講義時間数は限られているので、毎回出席することが大切である。また講義内容の復習や講義で詳しく触れなかった事項も自主学習し、單元ごとに知識の定着を図って欲しい。講義・実習に関わる資料は全て著作物であり、著作権の関係上、外部に流出することの無いように十分気を付けること。

備考

前年度の授業評価結果を踏まえ、今年度も引き続き丁寧に指導・教育できる体制を整える。

連絡先(メールアドレス)

齋藤 良一: r-saito.mi@tmd.ac.jp

オフィスアワー

齋藤 良一: 随時(必ず事前に連絡を入れること)